

[様式14]

(対象事業：1. 子どもを対象とした事業及びその開発にかかる事業)

事業名：教師と連携しワークショップ・連携授  
を開發・実践する事業

事業者名：神戸市立博物館

連携事業館名：神戸市小学校教育研究会社会科研究部  
神戸市中学校教育研究会社会科研究部

住所：神戸市中央区京町24番地

TEL：078-391-0035

FAX：078-392-7054

HPアドレス：

<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/museum/>



#### ① 施設概要

昭和57(1982)年に、南蛮美術館と考古館を統合し神戸の歴史を展示に加えた新しい人文系の博物館として開館した。約40,000件の収蔵品があり、国宝・桜が丘銅鐸をはじめとする考古資料、多数の重要文化財を含む南蛮・紅毛美術、全国有数の質・量を誇る古地図類が核となっている。収集・展示に加えて、様々な普及事業を展開。特に学校との連携は活動の一つの柱として、強く推進を図っている。

#### ② 事業の意図目的

学校教育と博物館との連携を進め、ワークショップを中心とした博物館プログラムをより魅力的なものにするとともに、そこで生み出されたノウハウを学校現場の授業に活かしていくことを通して、博物館と学校が一体となり子どもたちの歴史や資料を観察することへの興味関心を高めることを目的としている。

#### ③ 事業概要

- 学校現場に還元することのできるワークショッププログラムの開発と実践  
現場の先生方と一緒に学校現場に還元できるワークショッププログラムとして「伊能忠敬に挑戦しよう!」を開発実践した。また、年間を通して展覧会の内容に沿ったワークショップを企画運営した。
- 「出前授業」から「連携授業」への発展  
授業案の検討、TT(ティームティーチング)形式による授業実践、授業作り支援などの取り組みを通して共に授業を作るという意味での「連携授業」への展開を図った。こうした活動のさらなる充実を図るために「伊能小図-西日本図」の教材用複製を作製し活用した。夏季展覧会の補助資料として、連携授業における打合せや先生方の資料理解のために源平合戦図屏風のデジタルコンテンツを作製した。
- ワorkshop・連携授業実践事例集の作成  
連携授業の実践事例をまとめた「博物館と連携した学習プログラム」(南蛮屏風と源平合戦図屏風のデジタルコンテンツCD-R添付)を600冊作成した。

#### ④ 事業の製作物及び報告書等

伊能小図(西日本図)教材用複製	1点
伊能小図(西日本図)部分拡大プリント(A4)	10000枚
博物館と連携した学習プログラム(B4 40ページ)	600冊
南蛮屏風と源平合戦図屏風のデジタルコンテンツCD-R	600枚
源平合戦図屏風デジタルコンテンツ	1組

#### ⑤ 参加者状況

参加者人数 延べ 3212 人

内 訳 ワorkshop参加者3212名

## (1) 事業の実施状況について

### ①学校現場に還元することのできるワークショッププログラムの開発と実践

現役の先生方と運営委員会を組織し、検討会、予行実施、反省会、授業案検討の計5回の会合とワークショップ支援を受けることで「伊能忠敬に挑戦しよう！」などのプログラムを新たに開発し実践することができた。上記プログラムは、伊能図の観察、伊能図をトレースし現在の地図との比較、歩測に挑戦という3つの活動で構成されている。そのひとつひとつがパーツとして授業に活用できるように考えられたものである。

また、展覧会テーマに沿ったワークショップの実践として本年度は夏休みを中心に82回実施し、のべ3258名の参加者を得た。

- ・ 夏休み土器作り教室 (のべ3回)  
縄文土器の成形から焼成までを体験する
- ・ 金属を溶かして鏡を作ろう (2回)  
減摩合金を使用し古代の鏡作りを疑似体験する
- ・ 神戸のみなどについて学ぼう! (1回)  
造船所や港湾施設の見学をとまなうフィールドワーク
- ・ むりえで南蛮屏風を作ろう (2回)  
むりえで南蛮屏風のミニチュアを作製する
- ・ 神戸外国人居留地を歩こう (1回)  
クイズを解きながら親子で居留地をウォークラリーする
- ・ 江戸時代の地球儀を作ろう (2回)  
沼尻墨僊の地球儀の模型を作る
- ・ 江戸時代の絵の具で描いてみよう (2回)  
にかわで岩絵の具を溶いて色紙に描いてみる
- ・ 再発見! 六甲山〜グルームの足跡をたどる (1回)  
グルームゆかりのゴルフ場などをめぐるフィールドワーク
- ・ 古代人の生活を知ろう! (12回)  
石器や土器に触れたり、火おこしに挑戦する
- ・ 拓本をとろう! (12回)  
実物資料の湿拓に取り組む
- ・ むりえでザヴィエルの掛け軸を作ろう! (12回)  
むりえで発見当時の姿である掛け軸仕立てのザヴィエル像を作る
- ・ 伊能忠敬に挑戦しよう! (12回)  
観察、現在の地図との比較、歩測に挑戦する
- ・ 博物館たんけん隊 (3回)  
博物館のバックヤードを巡る
- ・ アンタラを作ろう! (2回)  
ビニールパイプを利用してアンタラを作る
- ・ 神様をデザインした壺を作ろう! (4回)  
テラコッタ粘土で自分の想像する神様を作る



- ・ こどものための展覧会講座（2回）  
展覧会ができるまでの話や展示物にまつわるクイズで楽しむ
- ・ 浮世絵で団扇を作ろう（1回）  
自分で色をぬり自分のうちわを作る
- ・ 浮世絵でおもちゃを作ろう（1回）  
展覧会に出品されたおもちゃ絵を自分で作ってみる
- ・ プロの摺り師に挑戦（1回）  
プロの摺り師の方の指導のもと多色摺りに挑戦する

## ②「出前授業」から「連携授業」への発展

当館は学校に職員が出向き博物館資料を用いて授業するいわゆる出前授業に意欲的に取り組んできた。19年度は、派遣回数76回、のべ派遣職員数161名、総授業時数243時間、対象児童生徒数6473名であった。これまでとの違いは、TT（ティームティーチング）形式を基本とすること、授業案を先生と一緒に検討すること、授業作り支援の活動にも取り組むことで学校もまた博物館共々主体なるという意味において連携授業という表現を全面に打ち出したことである。当館の連携授業における特色は模造資料の活用にある。実物を学校に持ち出すことは容易ではない点を模造資料でカバーする。実物でない点がネックになりそうだが実際には、実物を見るためにこどもたちが博物館に足を運ぶなど、模造品ならではの利点が実践を通して明らかになっている。

本年度作製した伊能小図（西日本図）も学校団体の来館時プログラムとして児童に提示し、引率された先生からとても喜ばれた。源平合戦図屏風のデジタルコンテンツも展覧会開催時の補助資料として有効だったことはもちろんだが、「源平合戦図屏風から見える平家物語」という連携授業プログラムを実施する上でとても役立った。

## ③「博物館と連携した学習プログラム」（デジタルコンテンツ CD-R 含む）

市内の小中学校に配布したことで、博物館との連携が継続性を保ちながらさらに活発になることを期待している。

## （2）地域との連携について

ワークショッププログラムの検討、ワークショップ支援、授業実践案の検討にあたり神戸市小学校教育研究会社会科研究部と神戸市中学校教育研究会社会科研究部の先生方の協力を得た。児童生徒の実態を理解しているのはもちろん、ワークショップを通して何を学ばせるのかといった視点をもって取り組めたことはたいへん有意義であった。

## （3）成果物について

### ①伊能小図（西日本図）教材用複製 1点

実物大資料はこどもたちの興味関心を大いに喚起した。実物ではないので、学校の要請に応じていつでも児童生徒に提示できるメリットはとて大きい。



20年度に利用した授業実践がしたいとの申し出も既に頂いている。これから益々活用の機会が増えていくと考えられる。

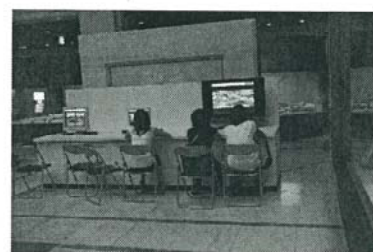
②伊能小図部分拡大プリント A4 10000 枚

ワークショップにおいて、トレーシングペーパーでトレースし現在の地図と比較するという活動に用いた。現場の先生方から教材用複製は1点しかないが、どの学校でも実施できる補助資料としてぜひとの声を受けて作製した。



③源平合戦図屏風デジタルコンテンツ

夏休みの展覧会において、源平合戦図屏風の補助資料として大いに役立った。連携授業「源平合戦図屏風から見える平家物語」の打合せ、先生方の資料理解にも有効であった。授業実践の場での活用を検討していきたい。



④博物館と連携した学習プログラム（連携授業実践集） 600冊

これまで実践してきた連携授業プログラムをまとめるとともに、博物館の活用方法を学校に提示することで、学校との連携活動のさらなる発展に役立つものと考えている。また、当館の連携活動の紹介にも活用していきたい。

⑤南蛮屏風、源平合戦図屏風デジタルコンテンツ 600個

昨年度作製した南蛮屏風デジタルコンテンツと本年度作製した源平合戦図屏風のデジタルコンテンツをCD-Rで上記「博物館と連携した学習プログラム」と一緒に配布することで資料理解を進めるとともに、先生方の手で授業実践における活用を進めていってもらえることを期待している。

(4) 参加者の反応

講座内容について	満足した	143	168	85.1%
	まあ満足した	23		13.7%
	普通	2		1.2%
	あまり満足しなかった	0		0.0%
	満足しなかった	0		0.0%
講座の時間	よい	149	164	90.9%
	長すぎる	3		1.8%
	短すぎる	12		7.3%
次回参加の意思	ぜひ参加したい	93	159	58.5%
	参加したい	64		40.3%
	参加したくない	2		1.3%

ワークショップ参加者のアンケート結果は左の通りである。内容について満足したという回答がほぼ100%、時間について長すぎるという回答は2%程度であり、次回参加の意思で参加したいと98%の回答を得たことから参加者から好評を得たと考えてよいだろう。具体的な声としていくつか紹介しておく。

- ・ワークショップ楽しかったです。夏休みのいい思い出です。（小学生）
- ・普通ではできない湿拓を体験させて頂き歴史を好きになってくれたのではないかと思います。（女性・保護者）



- ・親子とも楽しませていただきました。子どもも大変興味をもち、博物館への敷居が低くなりました。（女性・保護者）
- ・次の楽しい企画を楽しみにしています。（女性・保護者）
- ・いつも子どもの休みに一緒に博物館に来ています。親子で興味を持って楽しめる企画に毎回感動しています。これからも親子で訪れることのできる企画をお願いします。（女性・30代）
- ・たまたま来た日に体験できラッキーでした。来年はもっと早く来ていっぱい体験したいと思いました。（女性・保護者）
- ・拓本など新しい試みがあって博物館の意欲を感じた。（男性・60代）
- ・夏休みらしい企画ですばらしいと思います。（女性・30代）

#### （5）芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

昨年度に続いて夏休み期間中を中心にワークショップを数多く展開した結果、夏休みの神戸市立博物館は常に魅力的なワークショップをしているというだけではなく、こども向けのワークショップに力を入れている博物館としてのイメージが定着してきた。これは博物館の魅力作りに大いに役立っている。また、「伊能忠敬に挑戦しよう」というワークショッププログラムを現役の先生と共同開発・実践することを通して、その場限りで終わってしまうワークショップが、来館プログラムや現場の授業に引き続いて活用できた。このことは体験的な学習を求めている学校現場にワークショッププログラムを提供するという新たな学校連携のスタイルを生み出すとともに、これからのワークショッププログラムを開発していく上での指針が明らかになった。

本年度は「伊能小図－西日本図」の教材用複製を製作した。当館はこれまでも本事業を通じて教材用複製を製作し連携授業に用いてきたが、来館時のプログラムとして「伊能小図－西日本図」を活用した際、実物に負けない迫力を持ちつつ、実物ではかなわないいつでも提示できるという利便性を改めて実感した。先生方からも20年度に授業で活用したいとの声も頂いており、来年度が楽しみである。また、「源平合戦図屏風のデジタルコンテンツ」は、来館者から「とても分かりやすかった」「資料を楽しんで見ることができた」との感想が寄せられ、展覧会においてとても有効な補助資料として活躍した。学校連携の場面ではデジタルコンテンツを見た先生からの要請があり、「源平合戦図屏風から見える平家物語」という連携授業プログラムの実施回数が増加した。実際の活用場面としては、打合せや先生の事前学習にとどまっており、より有効な活用方法を検討していきたい。

実践事例集である「博物館と連携した学習プログラム」（南蛮屏風と源平合戦図屏風のデジタルコンテンツ CD-R 添付）を作製したことで、これまでの連携授業の実践をまとめることができた。市内の学校への配布を通して、連携活動が継続的な取り組みとなっていくことが期待できる。また、他館からの問い合わせにも有効に活用できると考えている。

(6) 新聞記事等

●神戸新聞 平成 20 年 2 月 3 日 (朝刊)

